

「福島の農業の未来を語るシンポジウム」取材レポート

私たち「ふくしま 新発売。」情報員が、シンポジウムの取材レポートをお送りします。

第2部 セッション「農村訪問」

(取材:芳賀智子 情報員)



第2部のセッションの内、私は「福島」の現状を見て考える「農村訪問ツアー」に同行させて頂きました。

参加者は東京農業大学の学生さんと留学生、それから地元の大学生もいらっしゃいました。福島市公会堂を出てまず向かったのは、福島市飯坂町にあるあづま果樹園さん。移動中、農大生にお話を聞いてみました。

Q. 福島に来たのは初めてですか？

A. 「小さい頃に、南相馬市に行ったことがあります。福島市は初めてです。同じ福島県でも街並みがだいぶ違うんですね。」

そうなんですよね。福島県は、浜通り・中通り・会津地方の3地方に分かれていて、それぞれ海・街・山と特徴が分かれているので同じ県でも方言や人の雰囲気もだいぶ違います。

Q. 現在の福島へ来ることに抵抗はありませんでしたか？実際に来てみていかがですか？

A. 「とくに福島へ来ることへの抵抗はありませんでした。こんなに普通に街が動いているとは思いませんでした。」

Q. 首都圏で福島の野菜を目にしたり、手にすることはありますか？

A. 「最近、野菜に産地が書かれて販売されているんですが、私たちには土地勘がないので、『福島県〇〇市産』と書いてあっても『福島県産』としか入ってこないんですよね。福島県はこんなに広いけど、福島＝危険かな？とってしまいます。」

確かにそうですね。私たち福島県民でも、「〇〇町ってどこだっけ？…会津の方だよな？…いや、福島市の下の方じゃない?!」という会話が交わされるくらい広いで

すから。今後は、福島県の地図に場所を記したものや、数値を記載して販売して欲しいなどの要望がありました。

そうこうしている間にあづま農園へ到着！
真っ先にリンゴ農園に案内して頂きました。



あづまさんのお話をお伺いし、さっそくリンゴ狩りを体験させて頂きました。
こちらでは、季節ごとにいろんな果物狩りが体験できるそうです。
さくらんぼ、もも、ぶどう、梨、リンゴと6月～11月ぐらいまで体験できます。

参加者の方々からあづまさんへの質問です。

【質問内容】

Q. 震災が起きて、どれぐらい被害を受けましたか？

A. 地震の影響はほとんど無かったのですが、原発事故の影響により6月のさくらんぼは9割減。1日に10台、土日30台来ていた観光バスが、今年はシーズンで15台弱ぐらいでした。あづま果樹園のある場所はフルーツラインと呼ばれていて、通常観光バスがたくさん行きかう場所なのに、今年はほとんど見なくて寂しいです。

Q. ここにあるリンゴに含まれる放射能は？食べても大丈夫ですか？

A. ちゃんと県で調べて、安全が確認されたものを販売していますので、安心して食べて下さい。

Q. 観光客がこちらへ来て購入する以外に、販売先はありますか？

A. 今年は観光客が少なく、店に置いておくだけでは腐ってしまうので、県外へ販売に行きました。今までは出張販売する暇がなかったけど、今年は東京・千葉・埼玉・神奈川で東北を応援してくれるお店さんが、うちで販売していいですよ！と言ってくださって、福島に来てもらえない分、自分たちで出向いて販売してきました。何度も何度も行きましたよ。

「自由に食べてみてください！赤いところを探してみてくださいね！」という言葉に、おいしそうなリンゴを探してみんなのテンションはMAX。

リンゴに傷をつけないように、リンゴを優しく回しながら斜めにポキッ！



Q. 普段食べているリンゴと比べていかがですか？

A. 「とにかく甘いです！こんなに甘いリンゴを食べたのは初めてです。おいしい！」と、同じコメントがあちこち飛び交い、ざわめきがおこりました。



私も頂きましたが、本当においしい！

次は、あづま果樹園さんのお店へ。



店内には、発送用の果物がズラリ。

果物狩りを体験したお客様がお土産に買われたり、親戚へ送ったり。私が昨年、さくらんぼ狩りにお邪魔したときも発送希望される方がたくさんいらっしゃいました。



↓ 現在もリンゴや柿、ラフランスなどの発送を行っておりますので詳しくはこちらへ

あづま果樹園⇒<http://www.dab.hi-ho.ne.jp/aduma/>



楽しい時間はあっという間で名残おいしいですが、次の場所へ向かいます。

到着したのは、農産物直売所「こころ」さん。



店内を散策したあとは、JA 新ふくしま営農部直販課課長 石渡さんにお話を伺います。農産物直売所「こころ」さんは、市内に7店舗。地産地消にこだわっていて福島市と川俣町で獲れたもののみ販売しています。



積極的に質問する方が沢山いらっちゃって、今の福島県への関心の高さ、真剣さが物凄く伝わってきました。



【質問内容】

Q. 震災直後の野菜の値段は震災前と変わりましたか？震災による影響はどのようなものがありましたか？

- A. 原発事故によりほとんどの野菜が出荷停止になってしまい、何を売って良いのかわからない状況に立たされてしまった。春先だったので果物もあまりないし、店頭に並んでいたのはねぎなどの土ものばかり。お店として並べるものがなくては困るので緊急会議を開き、やむを得ず今年初めて市場から農産物を仕入れる手法をとりました。直売所ならではの新鮮さを提供することが出来なかったことが悔やまれます。値段はきゅうりが1箱20円まで下がり、桃は例年の半額くらいに。そして、例年だと観光客の多い5月に観光客の姿が見られなかった。ここは普段、県外ナンバーでうまる場所なんです。夏休みぐらいからようやく徐々に観光客が戻り始めています。

Q. こちらの直売所ではどんなものが良く売れますか？

- A. 7~8割が観光客のお客様なので、野菜より果物が良く売れます。

Q. 4月に初めて市場から仕入れたと伺いましたが、普段はどのようにして仕入れているんですか？

- A. 農家の方が直接もってきてくれます。1300人のJA会員がいらっやいまして、農

家の方は7店舗のどこに出しても良いんです。むこうで売れなかったから今日はこっちとかでもOK。各直売所に直接野菜を持ち込みます。

石渡さん、ありがとうございました！

JA 農産物直売所こころ 吾妻店⇒<http://www.shinfuku.jp/cyokubai-azuma.html>

出発からあっという間に2時間が過ぎ、一行は公会堂へと戻ります。

Q. 今日参加してみていかがでしたか？

- A1. 「楽しかったです！農業のこれからを私たちも真剣に考えたいと思いました。」
- A2. 「出荷できないとされた農産物が廃棄されていると聞いてショックでした。農家の方の気持ちを考えると心が痛いです。」
- A3. 「福島に来る機会を頂けて良かったです。福島の良さを知ることができました福島に来たいと思いました。福島大好き！」
- A4. 「シンポジウムに参加出来て、とても勉強になりました。またこういった機会を設けて頂けたら嬉しいです。」
- A5. 「自分達の作った野菜を廃棄する気持ちに耐えられず農家を辞めてしまった人がいるという話を聞いて、とても悲しくなりました。」
- A6. 「被災地支援が薄れてきた昨今ですが、現場を見てまだまだ支援が必要だなと感じました。」
- A7. 「この経験はとても良かった。福島の方は優しい。楽しい。明るい。ありがとう！」

(取材:芳賀智子 情報員)